ASAGAO通信

ポーランドの最新情報を現地からお届けします

OCTOBER 1. 2020, ISSUE 27

https://asagao.pl
info@asagao.pl

ポーランドにおける ベジタリアン・ビーガン市場調査

ポーランドでは、ベジタリアンやビーガンといった「菜食主義」が数年前から急激に広がりを見せている。菜食主義には様々な種類があるが、一般的に**肉・魚介を口にしない「ベジタリアン」**と、**一切の動物性食品を口にしない「ビーガン」**とに分けられる。

○市場規模

Ariadna社の調査によると、現在ポーランドでは成人人口の8.4%にあたる約320万人が菜食主義であると推計されている。また、菜食主義でない人のうち38.5%が「肉類の消費を制限するために努力をしている」と回答した。2000年時点でポーランド成人人口のうち菜食主義者は約1%、2017年は3.2%であった(CBOS社調べ)。菜食主義者がここ2~3年で倍増していることが分かる。

ベジ・ビーガン食品を取り扱う店の数も増加傾向にある。Happy Cowが2019年に行った調査で、ワルシャワがビーガンに優しい都市世界6位に選ばれた。ワルシャワ中心部半径5マイル以内に50のビーガンレストランがあるという(5年前はわずか11店舗)。同社によると、ポーランド国内のベジ・ビーガン店数は1,214店舗にのぼる(2020年9月現在)。これらの店舗は地方にも多く点在しており、菜食主義が地方にも広く浸透しつつあることが分かる。

← ベジタリアン向けのクリームスープ

→　スーパーにはベジ・ビーガン食品専用コーナーが設けられている

○今後の見通し

ポーランドでは健康志向に加え、動物や環境への意識が高まっている。このことから、菜食主義の市場規模はますます拡大していくと予想できる。

日本には、かつてから植物由来の調味料や食品が多く存在する。調味料として幅広く活用できる味噌・醤油に加え、代替肉として注目されている大豆ミートや高野豆腐など、日本で日常的に食べられている既存の商品が、ベジ・ビーガン食品としてポーランドの菜食主義市場で売り上げを拡大できる可能性は十分にあるといえる。

ポーランドの流行

フリマアプリ「VINTED」

日本ではフリマアプリを運営するメルカリが、売上高48%増(前年比)と大躍進を遂げた。一方ポーランドでも、**リトアニア発のフリマアプリ「VINTED」が流行の兆しを見せている。**

○サービス内容

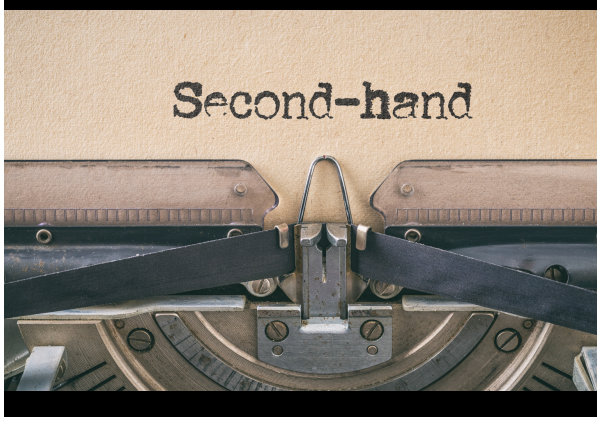
衣類をメインに、その他日常雑貨を売買できるフリマアプリを提供。ベルリン、プラハ、ワルシャワ、ビリニュスに拠点を置き、ヨーロッパを中心に12か国で事業を展開する。全世界での利用者は2500万人にも上り、ポーランドでもCM等の宣伝広告によって若者の利用者が急増している。

○特徴

無料アプリをダウンロードするだけで、多種多様な商品を閲覧可能であるという、お手軽さが最大の特徴である。また、購入代金の後払い制を採用することで安心できる売買取引を実現している。

独自の決済方法(VINTED WALLET)、に加え、DOT PAY、クレジットカード決済が可能である点も利便性が高い。

さらに、服のリサイクルはヨーロッパで高まる環境保護運動を加速させ、服飾業界の変革をに促すかもしれない。



【出典】
https://franceinpoland.com/2020/01/14/almost-40-of-poles-claim-to-be-cutting-back-on-meat-and-8-4-have-quit-completely/
https://notesfrompoland.com/2019/12/05/warsaw-named-sixth-most-vegan-friendly-city-in-the-world/
https://notesfrompoland.com/2019/11/15/veganism-is-thriving-in-poland-but-faces-a-conservative-backlash/
https://www.krystianknaszyk.pl/polski-rynek-wege-wegetarianizm-coraz-bardziej-popularny/
https://bit.ly/2S9Ccv
https://www.vinted.pl/